

平成30年度 吹田市在宅医療介護 多職種連携研修会



を実施しました★

吹田市では平成27年度から、医療・介護関係者等の多職種が共通の課題や状況を理解し、解決のプロセスを共有しながら課題解決の手法を学び、さらに「顔の見える関係づくり」等の一環として、医療・介護の関係者のネットワーク化を図ることを目的に研修会を開催しています。

平成30年度は「**看取り**」をテーマとし、「施設での看取り支援」及び「在宅での看取り支援」について2回開催しました。

① 施設での看取り支援について

平成31年1月17日（木）メイシアター

施設で看取り支援をされている東本さん（介護老人福祉施設ちくりんの里）と、宮崎さん（認知症対応型共同生活介護めいの家）が**実践報告**を行いました。また**施設での看取りを経験されたご家族**2名にお話しをしていただきました。

当日は高齢者介護に係る施設関係者等**71**名参加し、看取りへの取組について**意見交流**も行いました。

② 在宅での看取り支援について

平成31年1月24日（木）千里市民センター

在宅での看取りを経験されたご家族にお話しをしていただきました。また訪問診療をされている沖代医師（おきしろ在宅クリニック）によるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）についての**講演**を行いました。当日は在宅療養に関わる医療・介護関係者等**120**名参加し、**グループワークによる事例検討**を行いました。



両日ともに看取りを経験されたご家族のお話しは、大変感銘を受け、今後より一層**本人・家族に寄り添っていき**たいという感想を数多くいただきました。

また施設での看取りの実践報告も聞くことで、家族の想いと、看取りに携わる職員から見た看取り支援を学び、**具体的に看取りについてイメージをすることができた！**との声をいただきました。

またACPに関する講演やグループワークを通じて、**各専門職の役割の相互理解が深まり、今後多職種がどのように連携して、より良い支援を行っていけばよいか**を考える機会になりました。

この研修を通して、多職種の顔の見える関係を築き、多職種が連携した支援に対するモチベーションアップに繋がりました！

施設での看取り支援について

研修内容

ちくりんの里 東本さん

- 看取りは特別なことではなく、日々の暮らしの延長である。看取りに向けての支援を開始しても入居者の暮らしは変わらない。
- 看取り後、ご家族からアンケートを取り、カンファレンスで共有。次の看取りを迎えるために、少しでも後悔を減らせるように、職員同士で分かち合うことで職員の精神的ケアにも繋がっている。

「施設にお願いして、暮らしていた部屋でお別れ会を開催しました。利用者や職員等が次々と訪れてくれ、有難かった。家族のきずなど、施設と家族の信頼関係が大切だと痛感しました。」

「いつかは訪れる最期を、入所している施設で迎えられたら、この上なく幸せなことです。いつも聞こえてくるみんなの声に囲まれ、最期まで安心して自由にいつもの部屋で過ごせることが、本人・家族の一番の願いです。」



施設で看取りを経験したご家族

めいの家 宮崎さん

- 本人・家族だけでなく職員とも何度も話し合っており、家族・医療関係者・職員が同じ覚悟を持って看取りに向かわなければならないと思っている。職員の気持ちも大切にしている。
- 終末期になるとお部屋に入った人が何でも書く落書き帳を置き、家族と一緒に暮らす利用者、介護士や医療関係者それぞれの想いを繋いでいる。

「関わってくれた専門職の方のユーモアあふれる会話に、心がほぐされました。夜間も支援が受けられたことで安心できました。後悔もあるけど、本人と触れ合い言葉を交わし、時には抱き合っただという思い出があり、病院から連れて帰ってよかったと思います。多くの来訪者を迎えて穏やかに過ごしながら見送ることができました。」

在宅での看取り支援について

沖代医師による講演

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは「将来に備えて、今後の治療・療養について前もって話し合うプロセス」。

- ACP では、家族が事前に本人と話し合い、価値観や思いを共有しておくことが大切。
- ACPに決まった方法はなく、本人・家族と医療・介護関係者等との信頼関係ができてから、言葉を選びつつ話し合いを進めていく必要がある。死ぬことばかりでなく、生きることに焦点を合わせた言葉遣いのほうが受け入れられやすい。
- ACP で得た情報は、多職種と共有することが重要であり、課題でもある。情報共有に ICT の活用を検討できればよい。

在宅で看取りを経験したご家族

